

国立駅周辺まちづくり会議

今年度の検討内容と課題

1. 今年度の検討の狙い

- 中央線連続立体交差事業の進捗に合せ、高架下活用等の事業計画の作成に向け、関連する項目について重点的に検討

【重点的検討事項】

- ・高架下活用
- ・駅前広場整備（旧駅舎の復原を含む）
- 事務局が主体となって作成した案をベースに、検討部会、まちづくり会議で議論

2. 各部会の検討内容

1) 交通検討部会

- ・歩行者、自転車、自動車の“折り合い”のあり方（動線、駐輪場配置など）
- ・南北駅前広場が担う交通機能のあり方

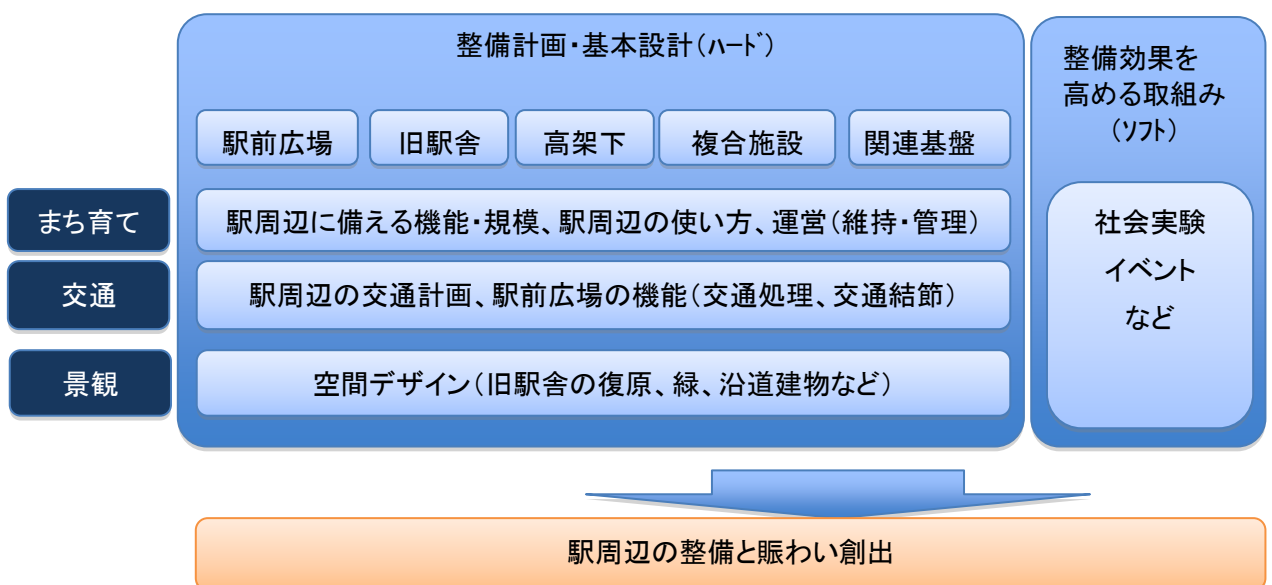
2) まち育て検討部会

- ・駅周辺に備えるべき機能・規模（特に高架下、旧駅舎）
- ・駅前広場の歩行者空間のあり方、使い方

3) 景観検討部会

- ・駅前広場、高架下の空間デザイン（旧駅舎の復原位置を含む）

図 各部会の役割分担



3. 今年度検討の視点

○高架下活用及び駅前広場への導入機能と動線は、鉄道事業者の検討や今後整備される複合施設等と一体的に検討

- ・ 駅周辺には、鉄道事業者による高架下空間活用計画、市による南口複合施設など、機能導入や動線計画に関連する動きが平行して進められている。
- ・ 高架下空間や駅前広場の検討には、鉄道事業者による検討（沿線の東小金井市では、西口改札の設置、商業機能の導入案が示されている）、複合施設内への導入機能（駐輪場など）なども大きく影響することから、これらを含め駅周辺を一体的にとらえた検討をすべき。

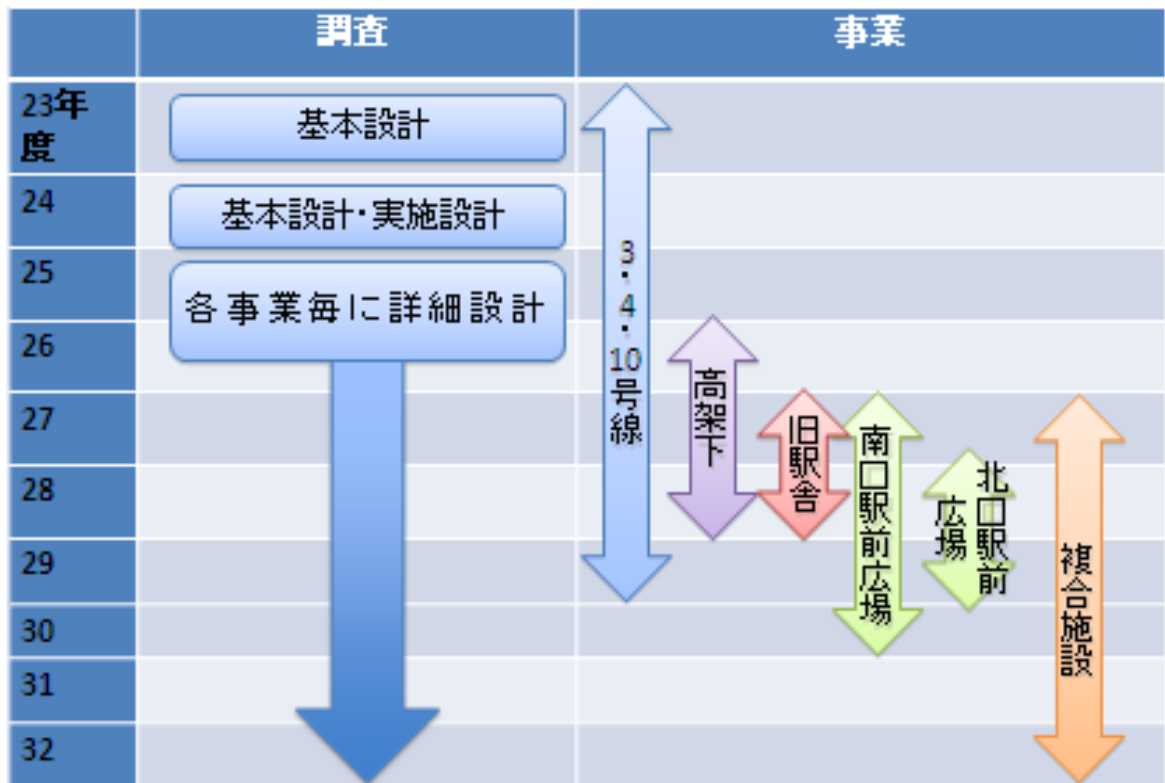
○高架下空間活用に合わせた整備の前倒しについて検討

- ・ 昨年度検討では、駅前広場については南口駅前広場への交通流入が減少する平成 32 年度を目標としたが、平成 25 年度には高架下活用が可能となることから、これに合わせ、駅前の「顔」として先行的に進めることも考えられる。
- ・ 特に、交通的な課題や対応が比較的限定的な北口駅前広場の整備を先行的に進めることも考えられることから、今年度検討については、早期の「出来型」完成を目指し、事業スケジュールの見直しを検討すべき。

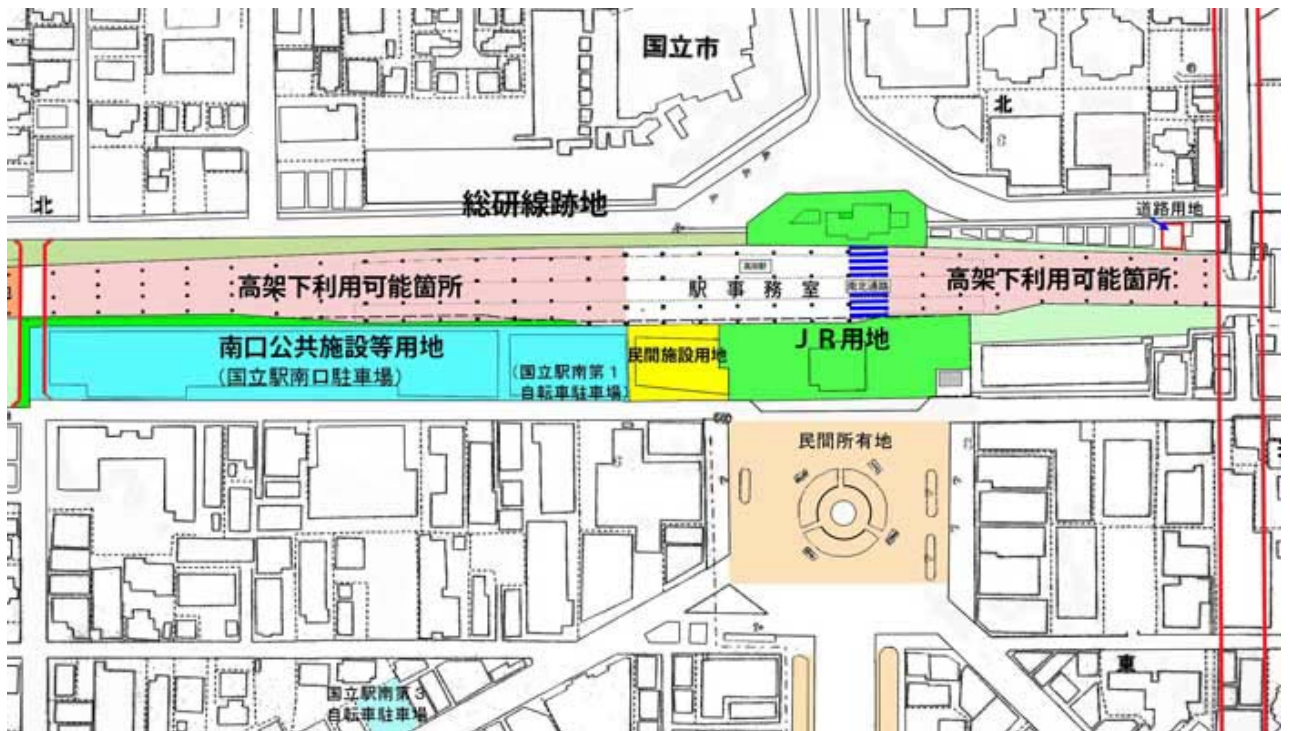
○具体の整備計画案をベースとした検討

- ・ 円形公園や旧駅舎の復原を含む南口駅前広場については、これまでの「ロータリー機能を残す」から、「交通処理機能として残すべきか」「緑ある円形空間として残すべきか」という「機能」と「形態・空間」を意識した検討が必要な段階を迎えている。
- ・ 今年度検討では、駅前広場の整備について、いくつかのパターンをもとに、「後世に引き継ぐべきもの」「今後、駅周辺において求めるもの」を明らかにし、将来に引き継ぐ公共空間としての駅前広場の整備について検討すべき。

国立駅周辺まちづくりのスケジュール



国立駅周辺の土地の状況



平成23年度 交通検討部会の進め方(案)

【「交通まちづくり」三原則】

- ・ 通過交通の排除
- ・ 歩行者を優先した道路空間の再配分
- ・ 街路空間のデザイン

■昨年度交通検討部会で合意形成した駅周辺区の交通まちづくりの目標
 ～歩行者、自転車、自動車等がお互いを意識しながら「低速で移動できるまち」～

平成23年度の進め方

【事務局が主体となって検討・実施する内容】

①実態調査の実施

- ・ 歩行者、自転車交通の実態把握
- ・ 交通シミュレーションのための基礎データの把握

②駅前広場の施設配置、 交通処理の検討

③駅周辺地区の交通処 理の検討

④交通シミュレーションによる交通処理計画の検証 ・3・4・10号の整備、方向規制等による周辺道路網への影響検証

⑤歩行者優先のまちの交通課題の整理

⑥南北駅前広場及び段階的な駅周辺交通計画素案の作成

交通検討部会 で要議論

◆基本的な考え方

- ◎ 歩行者、自転車、自動車の“折り合い”のあい方
- ◎ 国立南北駅前広場が担う交通機能のあい方
 - ・ ローターとしての交通処理機能
 - ・ 駅前広場としての交通結節機能

◆成果

- ◎ 隣接市を含んだ道路整備の進捗に合わせた段階的※な駅周辺交通計画案の作成
- ◎ 国立駅南北駅前広場整備計画案の作成

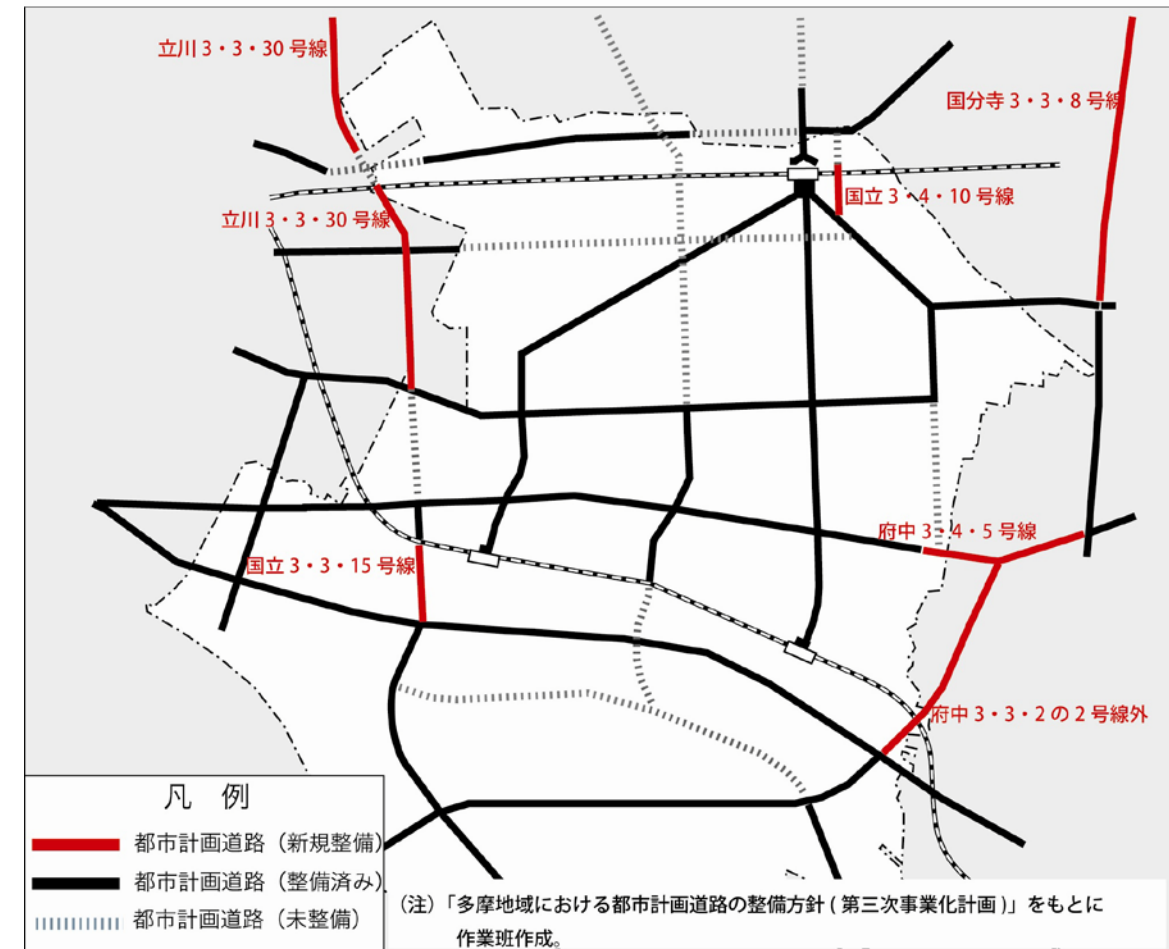
関係機関との協議

- ・ 交通管理者
- ・ 交通事業者 等

他の部会の連絡調整

- ・ まち育て検討部会
- ・ 景観検討部会

国立市周辺区の【平成32年】道路整備目標

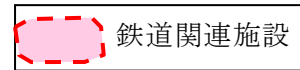


これまで計画されている国立駅周辺の交通計画と交通シミュレーションを実施する範囲

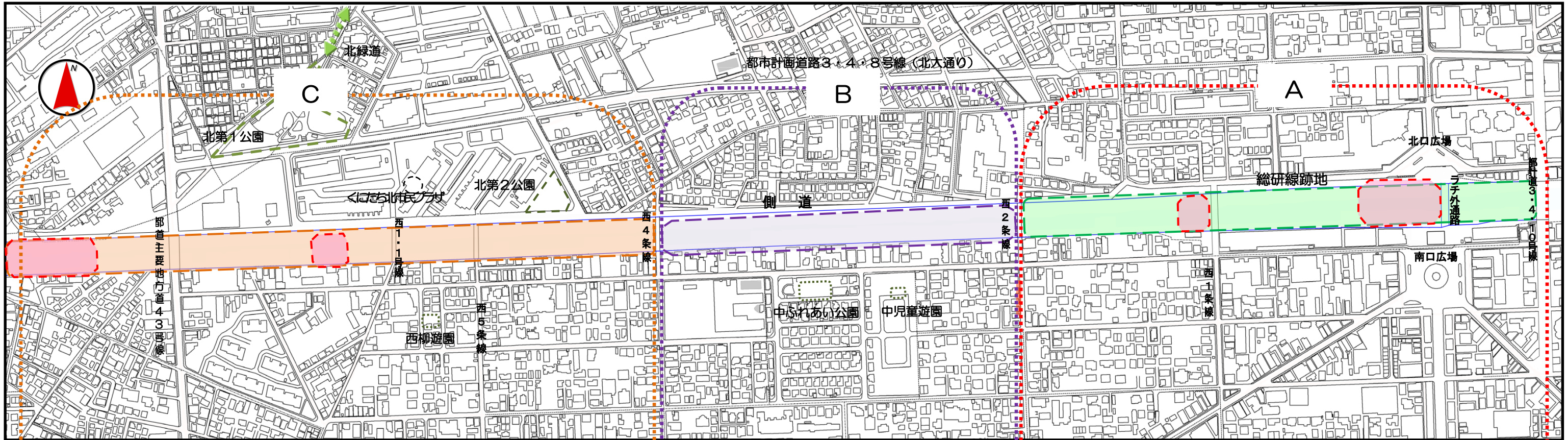


※) 平成32年、平成42年以降

J R 中央線 国立市域内高架下利活用ゾーニング



※この図面は、鉄道部分を引き延ばしています。縮尺はノースケールです。



駅中間に位置する、集合住宅が中心となった住宅地域であるこのエリアは、高架化により地域交流が活性化。日常生活のための生活利便施設や、北市民プラザを拠点とし、よりよいコミュニティづくりの環境を整備することを検討する。

閑静な住宅街が続くこのエリアは、新たに側道が整備されることで、回遊性が大きく向上するため、民間と公共が連携し、地域住民の生活を充実させる施設や、側道からのアクセスを活用した地域の交流拠点作りなど、目的性の高い施設を展開することで、更なる交流機会を高架上から発信する。

街の玄関口であるこのエリアには、市民生活と結びつき、南北、東西の回遊性をさらに向上させるような賑わいと魅力ある施設を検討する。公共施設としては、駅北側に接している国分寺市との連携を図る。駅周辺公共施設の状況を踏まえつつ、自転車駐輪場などの整備を検討する。